

I 研究の構想

1 研究主題

【研究主題】

自分の思いや考えを表現し、
ことばを大切に学び続ける児童の育成
～国語科学習指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 社会的な背景から

総務省等によると、今後予想される社会は、情報化や国際化が進展し、多様化した社会、Society5.0の時代になると言われている。この時代では、自動運転技術やドローンの活用、遠隔医療（手術）、IoTなど、私たちの生活に大きな変化が起これると考えられている。このような状況の下、『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～答申（2021年4月）』が、基本方針として示された。

この答申では、日本型学校教育は、子供たちの知徳体を育む全人教育的な側面や、子供たちのセーフティネットの役割を果たす福祉的側面において、国際的に優れているシステムであると言われている。その一方で、「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたように」という社会の要請に答えてきたことが、正解の暗記に終始してしまったこと、コロナ禍で何を学習していいのかわからない子が問題となり、自立した学習者を育ててきていなかったということが課題として指摘された。

これらの課題から、授業を「みんなが同じ内容を、みんなが同じペースで、みんなが同じ方法で」という指導者中心の考え方から、「同じも違いも混ざり認め合い、委ねて支えてともに探究する」という学習者中心の学びへと、学びの構造転換が今求められている。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、「よく考え、熱心に学ぶ子ども 明るく、思いやりのある子ども 優しいことを進んでする子ども 健康で、がまん強い子ども」である。

この学校教育目標の具現化のため、本校では令和3年度から令和5年度までの3年間、「特別の教科・道徳」を研究し、「指導観を明確にした道徳授業づくり」を目指して研究を進めてきた。また、学力向上の取組として、「学びのプラン」を作成することで見通しをもって学習する力を高めたり、ICTを活用することで他者との関わりから学ぶ力を高めたりと、主体的に学ぶ力も育ててきた。これらの取組によって、苫小牧市統一学力検査や全国学力・学習状況調査などからは、学年が上がるにつれて教師の指導を介せず自分たちで学んでいく意識

が高まったことや、低学年からの積み重ねによって目的意識をもって学習できるようになったことなどの意識や態度の面でも成果が見られた。

その一方で、全国学力・学習状況調査からは、児童の実態に合わせた読む力や書く力など、学習の土台となる基礎・基本（語彙力・読解力・表現力）を大切にしたい指導の必要であること。子どもたちの学習に向かう力を高める授業や学習に向かえない子どもたちを巻き込む授業づくりを行う必要があるなどの課題が見られた。

これらの実態をふまえ、令和6年度から、「自分の思いや考えを表現し、ことばを大切に学び続ける児童の育成」を研究主題として設定し、個別最適な学びと協働的な学びの両面から研究を捉え直し、子どもたちの学びに寄り添う、主体性を高める指導方法の工夫やICTの活用、基礎・基本の定着に向けた指導の工夫について研究を進めていくことにした。

3 目指す子ども像



①課題解決に向かって、主体的に学習し続ける子ども

②様々なかかわりを通して、学びを広げ、深められる子ども

③基礎・基本をしっかりと身に付け、ことばを大切にしている子ども

4 研究仮説

子ども像の具体化と研究主題の解決を目指し、次の研究仮説を立てて研究内容を焦点化し、校内研究を進めていく。

①「単元のゴール」を共有し、学習計画の中に、見通す、決定する、協働する、振り返る場面を設定することで、主体的に学習する力が高まるだろう。

②一単位時間の中で、ICT機器を活用したり対話的な学びの場面を設定したりすることで、学びを広げたり深めたりする力が高まるだろう。

③モデルを示した指導や読みの型を示した指導を行うことで、基礎・基本となることばの力が高まるだろう。

5 校内研究推進

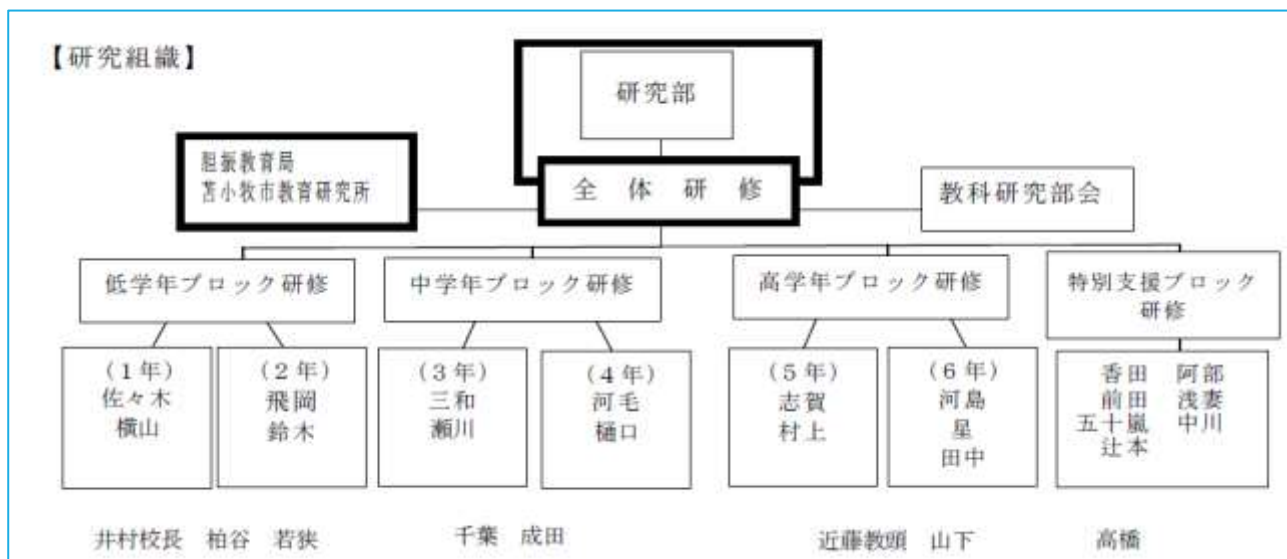
(1) 推進計画



● 1年次目
理論の構築
と共通理解

● 2年次目
研究内容の
共通理解
実践と検証
まとめ

(2) 校内研究組織



令和7年度 苫小牧市立泉野小学校 校内研修 全体構造図

- ・憲法・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・北海道教育推進の重点
- ・胆振教育推進の重点
- ・苫小牧市教育推進の重点

〔学校教育目標〕

- よく考え、熱心に学ぶ子ども
 - ・自ら進んで学ぶことのできる子
- 明るく、思いやりのある子ども
 - ・自他のよさを認め合い、高め合える子
 - ・明るく元気に気持ちのよい挨拶ができる子
- 正しいことを進んでする子ども
 - ・落ち着いた学びの環境づくりに心がける子
- 健康で、がまん強い子ども
 - ・最後まであきらめずにやりきる子

- ・児童の実態
- ・教師の願い
- ・保護者の願い

自分の思いや考えを表現し、 ことばを大切に学び続ける児童の育成

～国語科学習指導の工夫を通して～

研修で目指す子ども像

- ① 課題解決に向かって、主体的に学習し続ける子ども
- ② 様々な関わりを通して、学びを広げ、深められる子ども
- ③ 基礎・基本をしっかりと身に付け、ことばを大切にしている子ども

〔基本の仮説〕

児童に**身に付けさせたい力を明確**にした「単元のゴール」に向けた授業づくりを進めていくことで、児童の主体性が高まり、様々なかかわりを通して学習する力が高まるだろう。

- ① 「単元のゴール」を共有し、学習計画の中に、見通す、決定する、協働する、振り返る場面を設定することで、主体的に学習する力が高まるだろう。
- ② 一単位時間の中で、ICT機器を活用したり対話的な学びの場面を設定したりすることで、学びを広げたり深めたりする力が高まるだろう。
- ③ モデルを示した指導や読みの型を示した指導を行うことで、基礎・基本となることばの力が高まるだろう。

【研究の視点1】

- ・学びのプランの活用

【研究の視点2】

- ・ICTの活用
- ・対話的な学びの工夫

【研究の視点3】

読みの型を示した指導 指導系統表の作成 語彙を増やす指導
話し方・聞き方の系統 学習環境・言語環境の整備

6 令和7年度の取組

(1) 学びのプランの活用

目的

- ①「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」など児童が主体的に学習に取り組めるようにするため。
- ②1単位時間または単元後に、自分の学びをふり返ることで、深い学びになるようにするため。

利点

- ・教師も児童も見通しをもって学習を進められる。
- ・評価項目を確認できる。(この時間では、この評価をしようという視点がはっきりする。)
- ・教師が一単位時間のタイムマネジメントを考えるようになる。(ふり返りを行う時間の確保)

〔作成例〕

単元名		単元名			
たんげんのゴール					
日付	がくしゅうないよう	ふりかえり	日付	がくしゅうないよう	ふりかえり
1		わかる・できる ◎ ○ △	7		わかる・できる ◎ ○ △
2		わかる・できる ◎ ○ △	8		わかる・できる ◎ ○ △
3		わかる・できる ◎ ○ △	9		わかる・できる ◎ ○ △
4		すすんで取り組む ◎ ○ △	10		わかる・できる ◎ ○ △
5		わかる・できる ◎ ○ △	11		わかる・できる ◎ ○ △
		わかる・できる ◎ ○ △	12		すすんで取り組む ◎ ○ △

たんげんをおして、まなんだことをふりかえろう。
こぶんからすすんでがくしゅうできたかな？
まがのきょうかやふだんのせいかつにつかえることはあるかな？

見通す

決定する

協働する

振り返る

国語科の課題＝何を学習したのかがわかりにくい

→指導事項 (学習で使用する言葉) を明確にする

〔系統表の見方〕

- ・「★」は初出する学年を表す
- ・太線は、指導内容の追加を表す

太線＝内容の追加

4年光村「一つの花」

「一つだけちょうだい」

↑↓

「一つの花」

題名と比べて読む (主題)

- ・破線は、学習で先行指導することを表す

破線

先行指導

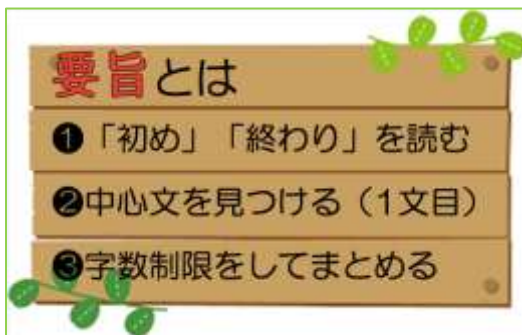
説明的文章

1 筆者の「伝えたいこと（要旨）」を読む

（「初め」と「終わり」を読み、「中」を読む必然性を持たせる）

2 筆者の説明の工夫を読む

（写真や図表の効果・説明の順序・題名への関連）



見出しをつけるポイント！

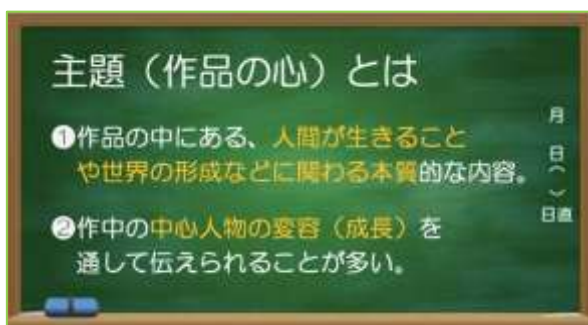
- ①一文目
- ②キーワード
（反復される言葉
題名に關係する言葉）

文学的文章

1 最も大きく変化したことを読む（初めと終わり）

2 どのように変化したのかを読む（中）

3 どうして変化したのかを読む（主題）



発問の種類

- 読みの深さ ↓
- ①心情を問う→全員で押さえない内容
 - ②見たこと（知っていること）
 - ③解釈（役割・対比・色の意味
理由・言葉のちがい）
 - ④主題を問う

カメラ機能の活用（低学年から）

①カメラを活用しよう!

- ◆ドキュメント（スキャナ）
- ◆ビデオ（一時停止）
- ◆ホワイトボード インカメラとアウトカメラで機能が違うので注意!
- ◆パノラマ（平行移動）

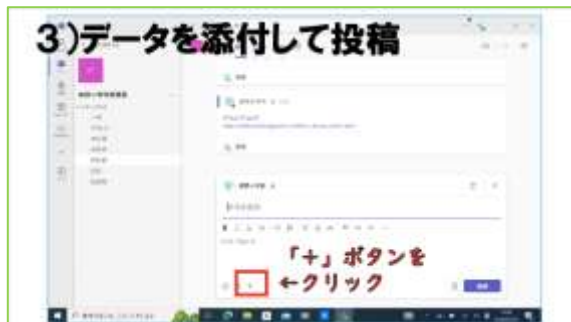
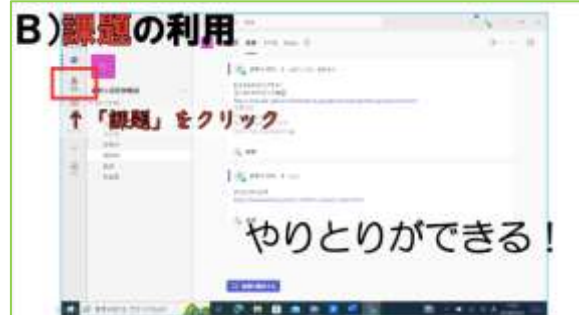
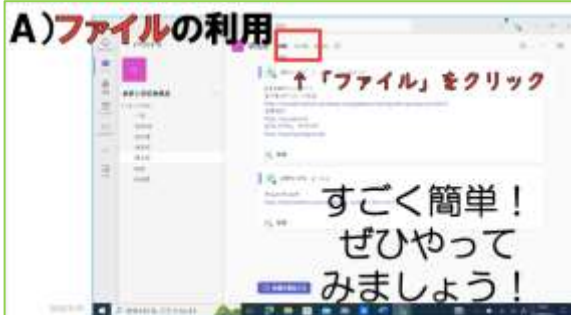
カメラ活用の留意点

- ◆手書きで残すよさ(バランス)
- ◆定期的に整理整頓
→クラウドにあげる・捨てる
- ◆肖像権・著作権問題の扱い

データ提出（Teams）

- ・データ提出方法は、主に「ファイル」「課題提出」「チャット」の3つ。

（学習内容や評価などを鑑みて、方法を選択）



	メリット	デメリット
ファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・フォルダ作成が簡単 ・保存も簡単（ドラッグ&ドロップ） ・提出が素早い 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に見られる
課題提出	<ul style="list-style-type: none"> ・コメントで評価 ・一覧で管理できる（再提出） 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士見ることができない ・課題設定の手間

データ提出のメリット

- ◆保管場所・手間・管理がすっきり!
- ◆作業が早い（打ち直ししなくていい!）

複線型の授業を目指して



「児童がどう取り組んでよいのかわからない」と困ったときに、友達の取組を確認できるようにするため、「Padlet」を用いて情報共有を行う。



また、学習場面での活用場面や活用方法を全体で共有した。

〔Padlet の使用例〕

A 単元計画の作成

- ① 「キャンパス」を選択
- ② 個人で問いを入力
- ③ 全体で色分け
- ④ 単元で張り問いの選択

B 説明の工夫や表現の工夫

- ① 「ウォール」を選択
- ② 個人で工夫を入力
- ③ 全体で共有

C 発展的な学習

学習のまとめとして

<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>100人を超える児童が、この単元を学習し、大活躍しました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>
---	---	---	---

創作活動として

<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>	<p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p> <p>児童が、自ら、と探求して、学びました。</p>
---	---	---	---